

文京区指定有形文化財

日本女子大学

成瀬記念講堂



Naruse Memorial Auditorium

明治の浪漫を現代に伝える

成瀬記念講堂は、日本女子大学の創立から5年後の1906（明治39）年、森村豊明会*の寄付により建設されました。創建当時は教室棟と繋がった大規模なもので、二階のバルコニー部分は図書館として兼用されていました。

煉瓦造りの壮麗な建物でしたが、1923（大正12）年の関東大震災によって大きな被害を受け、翌年、講堂部分のみが修築されました。外壁は板壁となりましたが、内部の造作はそのままに残されています。

その後、1961（昭和36）年に補修工事を行ない、名称も日本女子大学の創立者成瀬仁蔵の名を冠して「成瀬記念講堂」と決めました。

明治時代の洋風学校建築として貴重な遺産である本講堂は、1974（昭和49）年に文京区の有形文化財第一号に指定されています。

* 森村豊明会…実業家森村市左衛門が率いた社会貢献事業団体。森村はノリタケやTOTOなどの創始者。



内観



明治末頃の講堂（右方は教室棟）

施工

清水満之助本店
（現在の清水建設）

構造

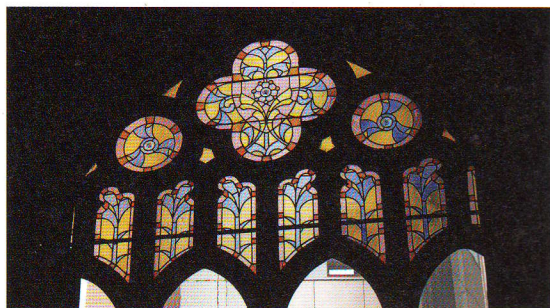
2階建（一部地下1階）
地下部分煉瓦造
地上部分木造（当初外壁煉瓦造）
切妻屋根鉄板瓦棒葺（当初スレート葺）

規模

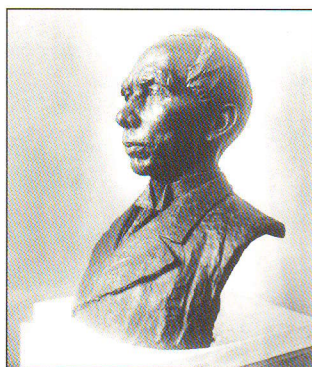
南北（梁行）全長：18.87m
東西（桁行）全長：35.20m
建築面積：571.79㎡
延床面積：912.93㎡
席数 1階 688席
2階 407席

現在の外観





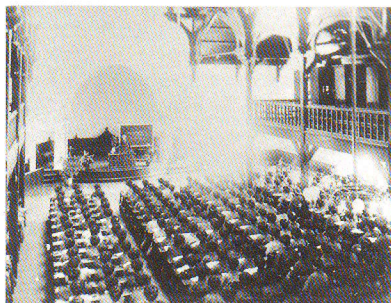
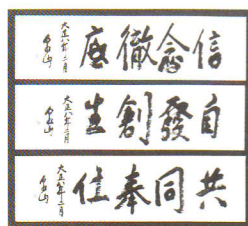
関東大震災にも耐えたステンドグラス。



演壇には高村光太郎作の「成瀬仁蔵胸像」(1933年、ブロンズ)が置かれています。

高村光太郎が14年もの歳月をかけて作り上げた貴重な作品です。夫人の智恵子は日本女子大学の卒業生です。

壇上にある三つの額は、創立者成瀬仁蔵が書き遺した「三綱領」(複製)です。日本女子大学の教育理念を表しています。



講堂で講義を行なう成瀬仁蔵。建物のデザインには、成瀬の希望が取り入れられています。

交通のご案内

JR 目白駅下車徒歩約15分 / JR 目白駅前より日本女子大学行スクールバスまたは都営バス新宿駅西口行・江戸川橋行・椿山荘行にて日本女子大前下車 / 東京メトロ有楽町線護国寺駅下車(出口4)徒歩約10分



〒112-8681
東京都文京区目白台2-8-1
見学をご希望の方は、お問い合わせください。
Tel 03 (5981) 3114 (総務課)